



この4月に就任された、国際機関太平洋諸島センターの齋藤龍三新所長にインタビューを行いました。

この道に進まれた原点を教えてください。

小学生の頃の卒業文集を読み返すと、外交官になりたいとあった。叔父が通産省の役人で海外の話をよく聞かされていたことも影響していると思う。そういう意味で、小さい頃から、海外と接点があった。母の話だと、幼少期にはパン屋になりたいと言っていた。近所のタカキベーカリーというパン屋が、アンデルセンというブランドを立ち上げ、その響きを聞きパン屋は海外と関係があって、外国に行けると思っていたらしい。思い返せば、かなり小さい頃から海外に興味を持っていた。

大学、就職はどのような考えを持ちましたか。

大学でも海外に関心があり、卒論はドイツの経済学者フリードリッヒ・リストを研究した。卒論執筆の中で赤羽裕の「低開発経済分析序説」に出会い、非常に感銘を受けたことを今でも記憶している。開発途上国の自立に興味があったのではな

いかと思う。就職活動でも日本貿易振興機構等の海外と関わる企業、団体を受けた。

会社では、どんな仕事をされていましたか。

最終的に伊藤忠商事株式会社に入社した。入社すぐにエネルギー部門に配属され、以後その道を歩むことになった。天然ガス部長のときにパプアニューギニア案件に関わり、大洋州総支配人としてオーストラリアに駐在した。この頃は太平洋諸島を面で見るとはあまりなかったと思う。商社マンとして市場が小さい太平洋島嶼国については考えるのは難しかった。印象に残っていることと言えば、フィジーのクーデター。当時は豪州に赴任しており、現地メディアがバイニマラマ首相を連日非難していたことを覚えている。この影響で、当時はバイニマラマを危険な独裁者だと考えていた。所長になり、太平洋諸島学会での発表に触れたり、現場当事者の話を聞き、フィジーやバイニマラマ首相に対する印象は変わり、それぞれの国の事情があることを理解した。

天然ガスの開発でパプアニューギニアを訪れたことがあり、現地での移動には警護車両をつけたことを鮮明に覚えている。また、パプアニューギ

ニア政府との交渉では、背後に豪州人アドバイザーが動いていることが見て取れた。豪州の影響力が非常に大きいと感じた。

伊藤忠退職から所長就任まで、どのような経緯があったのでしょうか。

退職を控え、関連会社等、伊藤忠グループに残る話もあったが、何か社会に貢献できる仕事につきたいと考えた。自身の経験を振り返れば、中東、アメリカ、豪州でのマネジメント経験があった。そう考えた時、既に中東、アメリカは多くの人材がいる、豪州での経験を活かさないかと考えた。色々調べるうちに、偶然、太平洋諸島センター(以下、PIC)の公募を見つけて応募した。

所長になって、感じられたことを教えてください。

7カ国の駐日大使が、日本で一生懸命頑張っているという印象を受けた。また、PICも彼らから頼られ、20年分の信用の厚さを感じている。東京だけでなく、東北、九州でも様々なイベントが開催され、日本との関係の発展への熱心さが伝わってきた。

特に、立命館アジア太平洋大学で開催された、太平洋諸島を日本に紹介する企画である「パシフィックウィーク」では、留学生を中心に若い世代が企画運営をしていた。こうした、新しい世代が日本との関係を深めていけると感じた。

一方で、日本と太平洋諸島で共有できる価値観は何か、島嶼国の自立には、どのようなことができるのか、学び考えていかなければならないと考

えさせられた。

PICの活動にどのような目標を持っていますか。

ほとんど太平洋諸島について白紙の状態です。所長に就任したので、周りの意見を聞きながらも、新しい発想を持って活動をしていきたい。自分の経験を活かして、少しでも日本と島嶼国の貿易、投資、観光を促進させ、これらの国々の発展に貢献したい。

先ほども話したように、PICは小さい組織であるので出来ることには限りがある。現状をしっかりと認識し、選択と集中、簡素化と透明性を大事に望みたい。早速、PICからの郵便物も可能な限り、電子メールで代替したりインターネットバンキングを導入する等工夫をはじめた。

共に活動するスタッフはみんな真面目で、熱心であるため、より良い組織にできると考えている。

太平洋諸島に関わる皆様へのメッセージをお願いします。

多くの方々にPICを支えていただけて本当にありがたい。皆様のサポートがあって20年間やってこれた組織あるということ強く感じている。他の地域に比べれば、小さな国々、少数の業界ではあるが、私達の活動はみんなの力で大きくしていくことができる。

皆様と熱い思い、共鳴で進めていきたい。



PIC懇談会での所長就任挨拶



PIC懇談会での所長就任挨拶



太平洋諸島ビジネスセミナーでの司会